

坂 昌樹先生のご逝去を悼んで

経済学部長 梅 本 哲 世

坂 昌樹先生は、2007年5月8日に逝去されました。享年55歳。『経済経営論集』の月号は、先生の追悼号として発行されるものです。

先生は、名古屋のご出身で、1978年3月に名古屋大学経済学部を卒業され、81年3月に名古屋大学大学院経済学研究科前期博士課程を修了後、同年4月に同研究科後期博士課程に進学されました。さらに、同年8月にドイツのフライブルク大学哲学部に留学され、83年4月より同大学哲学部博士課程に進学、89年5月に同課程の単位修得後に帰国されました。ドイツ留学は8年近くに及んでいます。帰国後、90年3月に名古屋大学大学院経済学研究科後期博士課程を単位取得満期退学されました。

その後、名古屋大学経済学部助手を2年間務められてから、1994年3月に桃山学院大学文学部に専任講師として赴任されました（西洋史・ドイツ語担当）。2001年に助教授になられ、2002年に経済学部へ移られました。

坂先生は、本学で新カリキュラム実施準備委員、共通科目協議会委員、外国語教育センター運営委員などを歴任されましたが、特筆すべきは2004年から3年間、国際センター長として活躍されたことです。この時期に先生の奮闘のおかげで、桃山学院大学は外国の大学との提携関係を大幅に拡充し、本学の建学の理念である「世界の市民の育成」へと大きな一歩を踏み出すことができました。得意の語学力を生かして、世界の各地の大学との提携を次々と実現する先生の行動力に、私は一種の憧れと、強い尊敬の念を抱いたものです。

2008年3月1日に、坂先生と同僚・友人・教え子等が集まり、「坂先生を

偲ぶ会」がもたれました。約70名の参加者が生前のスライドを見て、先生の思い出を語り合いました。坂先生がすばらしい登山家であるということを初めて知りました。また私は、坂先生がゼミ生や講義の受講生ときわめて深い人間関係を築いてこられたことに、深く感動しました。桃山学院大学はすばらしい教育者を失ったことを痛感しました。

坂先生は、経済学部に移られてから学部専門科目として「社会思想史」を担当されました。専門分野は「ドイツ啓蒙主義」のご研究が中心であったようです。特に最近は、大学との関係を中心に研究されていたようで、「ドイツ啓蒙と大学」、「ドイツ啓蒙の実用主義」、「ドイツ官房学小史」などの論文を紀要に書いておられます。私がいへん残念に思いますのは、坂先生がこれから研究に本格的に取り組もうとされていた矢先に急逝されたことです。2007年4月から1年間の学外研修期間中、研究に専念できることをさぞかし楽しみにしておられたことと思います。われわれにとってだけでなく、坂先生ご自身にとっても無念の思いが強かったのではないのでしょうか。

大学をめぐる環境は、少子化を背景としていま急速に悪化しつつあります。このような時期に坂先生を失ったことは、まことに残念であると言わざるを得ません。

坂先生、私たちは先生の思い出を胸に刻み込み、大学の発展のために努力していきます。これからもどうか私たちを見守って下さい。